

みどり北九州

MIDORI KITAKYUSHU



北九州緑化協会

発行所

一般社団法人 北九州緑化協会

〒805-0033 北九州市八幡東区山路松尾町14番2号

発行人/水野貞明 編集/広報委員会

TEL.093-654-1233 FAX.093-654-1231

e-mail : info@kita-ryokka.or.jp

ホームページアドレス : <http://www.kita-ryokka.or.jp>

第

47

号

平成27年
1月1日発行

新年御挨拶

タコマ市日本庭園計画

こちら公園緑地部「地域に役立つ公園づくり事業」

緑のネットワーク

環境と緑 第7回「都市と自然の共生」シンポジウム開催

支部活動

樹木医からの一言

石田前専務理事を送る会

次世代を担う経営者たち「平方晴宏園 平方友一さん」

この人にズームイン「(株)青葉造園 田村俊一さん」

委員会活動



「写真:合馬のたけのこ」

撮影:林 夏実さん(小倉南区)



一般社団法人北九州緑化協会

会長 水野 貞明

新年明けまして

おめでとうございます

爽やかな気持ちで、新年をお迎えの
と存じます。

お蔭様で昨年も、さまざまな活動を展
開することが出来ました。各種講演会の
開催、米国タコマ市における日本庭園改
修調査及び設計協力、都市緑化祭等イベ
ントへの参加、グラウンドゴルフ大会や
技術講習会の開催等々。

特に11月28日に主催した第7回「都市
と自然の共生」シンポジウムでは、講
師に環境省九州地方環境事務所の今福自
然保護官、青楓緑化（株）の岸野社長、
地元からは千々和公園緑地部長をお迎え
し、またコーディネーター役は、市環境
局環境学習課の東田課長という構成で行
いました。このシンポジウムが、北九州
市における「自然環境保全」や「都市に
おける生物多様性確保」に向けての一助
となることができれば幸いです。

さて我が国では、東日本大震災から得
られた教訓を踏まえ、国土強靱化に向
けた取り組みが始まっています。温暖
化が進む今日、世界的にも、防災・減

災は重要なテーマとなっていますが、
従来のインフラ（グレイインフラ）整
備から、自然生態系のもつ防災・減
災機能等を生かす「グリーンインフ
ラ」の考え方が、新しい社会資本整備
としてクローズアップされています。

これは、自然環境が有する多様な機能
（生物の生息場の提供、良好な景観形
成、気温上昇の抑制等）を活用すること
によって、持続可能で魅力ある国土づく
りや地域づくりを推進することであり、
地域の魅力や居住環境の向上、生物多様
性の保全、防災・減災等が可能となりま
す。また、居住人口や交流人口の増加、
土地の価値の向上等が図られ、地域の活
性化やそれに伴う雇用の増加を通じて地
方創生に資することになります。

私共は、日頃から「自然」や「緑」と
の関わりの深い業種でありますから、そ
の特性や地域特性を十分に生かすことに
よって、この分野において、将来に向かっ
ての社会的役割を見出すことが出来るの
ではないかと思っています。

本年も、美しい北九州市の都市景観の
実現や潤いのある生活空間をめざす、「都
市緑化の推進」や環境に関わる「都市と
自然の共生」をテーマとした活動を専業
者であるとの意識のもと、より一層の展
開をしてまいります。また新たな施工技
術の向上、伝統的造園技術の継承・発展
や経営の合理化等に向けた取り組みも一層
強化していかねばなりません。

皆様方のより一層の御指導・御支援を
お願い申し上げますとともに、今後の御
発展と御多幸を心からお祈り致します。



タコマ市日本庭園計画

POINT DEFIANCE PARK
JAPANESE GARDEN
TACOMA.USA



アメリカ合衆国西海岸にある北九州市の姉妹都市・タコマ市の公園内にある日本庭園改修に当たって、平成24年9月に研修を目的に訪問団が北九州市に来られた際、当協会に設計の協力依頼がありました。その際、訪問団とは改修予定の庭園について、改修デザインなどの意見交換を行うとともに、具体的に日本庭園を知ってもらうため、福岡市の友泉亭など近郊の有名な庭園や京都の竜安寺石庭や金閣寺などの名園を案内し、実際に見てもらいました。



更に計画を具体的に進めるため平成26年8月18日から26日まで北九州市からの要請で水野会長と私でタコマ市へ現地調査に行っていました。日本庭園の素案を描いて持つて行き、現地スタッフと詳細な協議を重ねるとともに、実際に行つて現地を見なければ分からない多くのことも調べ、さらに現地スタッフの考えを聞くこともできました。それを元に帰国後いろいろと修正を重ね提案したデザインは、タコマ市からの希望で鯉が泳ぐ「池泉回遊式庭園」とし、築山と勇壮な滝、楚々としたせせらぎを取り入れています。庭園にある中の島には、50年以上も前に旧小倉市から贈られた赤い祠（ほこり）と鳥居を残して配置しました。タコマ市の観光写真には、富士山のような形をした有名なレーニエ工とこの祠のある日本庭園が必ず入っていることから、今後も北九州市との友好のシンボルである庭園の中で大切に保存したいと考えたからです。

また、庭園のすぐ横にある日本風旧駅舎（パゴダと云われています）は、現在結婚式などのパーティーに多く利用されていますので、そこから日本庭園がよく見えるよう広々とした景観にしました。現在の庭園は、100年以上の歴史があり、在米の日本人達によって幾度となく日本的になるよう整備されてきた経緯があります。その人達の思いにも応える庭園にしたいと思いました。訪米したもう一つの重要な目的は、滝、せせらぎや池の護岸に使う石材の調査です。前回、タコマコミュニティカレッジの枯山水庭園を造園したときには適した石材が見つからず、やむなく鉾山の碎石を使用したので日本庭園の風趣に欠けましたが、今回は現地の造園資材業者に山積みされていた花崗岩の庭石を見つけることができ、これですべての石組が出来そうです。樹木については、北米の常緑樹は、なぜか枝垂れた針葉樹が多く、種々選択して利用しなければなりません。落葉樹は、紅葉の種類が多いようです。シアトル周辺の庭園を視察したところ、そこでは我々がいつも見慣れている仕立てられた黒松やツツジの玉物があり、十分に育っているのを見て一安心しました。



ワシントン大学日本庭園



ポイントディファイアンスパーク日本庭園



説明会

今回設計した庭園もそうなるように心から願っております。

(株)九州造園 矢野敏之



タコマコミュニティカレッジの枯山水庭園



現地調査



地域に役立つ公園づくり事業

北九州市ではおよそ30年前から、既存公園の再整備に取り組んでいます。

(I) これまでの取り組み

当初の再整備計画案づくりは、主に、市が作成した案を地元説明会等にはかり、町内会役員などの方々からご意見をいただくという方法で行っていました。

その後、市民参加の気運の高まりとともに、20年ほど前から「市民参加の公園づくり」に着手。大人も子どもも参加可能なワークショップで、白紙の状態から再整備計画づくりを行う事業が始まりました。

(II) 「地域に役立つ公園づくり事業」

これまでの取り組みを受け、その発展型となる「地域に役立つ公園づくり事業」が、平成20年度からスタートしました。これは、小学校区を一つの単位として、校区内にある身近な公園を対象に、地域住民の方々が参加するワークショップで再整備計画づくりを行うものです。

公園再整備の対象となるのは基本的に、

①老朽化した公園(概ね30年以上)

②愛護会がある公園

としていますが、もしもワークショップ時には愛護会がなくても、結成を約束いただいた上で対象とすることもあります。

これにより、一つ一つの公園の再整備計画



ワークショップ風景

【かわら版】

ワークショップ期間中に3回、全戸配布しています。地域の皆さんとの情報共有、および参加を促しています。※配布版はモノクロです。



はもとより、公園と公園のつながりや地域の中での公園の役割についても話し合うことができ、地域全体として公園を考えるよい機会となっています。

これらのプロセスを経て、地域の方々にとって公園がより身近な存在となり、地域活動などで活発に利用していただくことを目指しています。

さて、この事業では、ワークショップ開催の翌年から約2カ年かけて、計画にもとづく再整備工事を行います。つまり、小学校区内のいくつかの公園がまとめてきれいになる機会でもあるのです。

このこともあり、地域住民の方々も積極的にワークショップに参加され、様々な案をいただいています。

たとえば、地域活動の場となる花壇や菜園を整備したり、公園ごと異なる遊具を配置して校区内の公園をつなぐウォーキングマップ



幼児コーナー



健康遊具



【PRパンフレット】
地元の皆さんに、事業を紹介するパンフレット。各まちづくり協議会や市民センター、区役所などに配布しています。

(記:建設局公園緑地部)

づくりに取り組んだことも。また、繁茂した樹木を剪定・撤去して見通しを確保したり、健康遊具や幼児向け遊具の設置など、安全安心や高齢者の健康づくり、子育て支援といった他部署の事業とも関わりの深い整備も行っています。

(III) 地元の方々の声

本事業では、今年度までに26校区でワークショップを実施し、逐次、整備工事を行っています。

そこで、平成25年度には事業評価を行い、整備後の公園の利用状況などについて住民の方々にアンケート調査を実施しました。その結果、約8割の方から「公園の利用が増えた」、「世代間の交流が増えた」という声をいただき、概ね好評を得ている状況です。本事業をすすめる上で、たいへん励みになっています。

これからも、まだ整備を行っていない小学校区の方々に働きかけを行い、身近な公園について市と地域住民の方々と一緒に考えていけたらと思っています。

緑のネットワーク

紫川河畔公園(小倉南区)
芝生広場北側にある複合遊具エリアです。開放的空間の中に広がる遊び心をくすぐられる施設です。



小倉駅ペDESTリアンデッキ(小倉北区)
この花壇は市民の皆様のご協力でできました。

東田大通り公園(八幡東区)▼
東田の芝生広場がリニューアル。生物多様性に配慮した緑あふれる空間に生まれ変わりました。



◀荒生田一丁目西公園(八幡東区)
キモかわいいスイング遊具。乗りたくなりますよ!





環境と緑

第7回

「都市と自然の共生」

シンポジウム開催



平成26年11月28日、北九州国際会議場において北九州緑化協会主催の第7回シンポジウムが開催されました。メインテーマは「都市と自然の共生」。この二律背反のようなテーマのもとに、講師として北九州建設局公園緑地部長・千々和秀二氏、環境省九州地方環境事務所自然保護官・今福靖次氏、青楓緑化（株）代表取締役・岸野純一氏のお三方をお招きしました。さらにシンポジウムの見せ場となる意見交換の場でのコーディネーターとして、北九州環境局環境政策部環境学習課長・東田倫子氏をお迎えしての開催となりました。



千々和氏

千々和氏からは、「北九州市における自然環境保全等の取り組み」の演題のもと現地報告をして頂きました。北九州市の地形的特性を重要なファクターとして捉

え、北九州市の緑地行政に反映させているとのこと



今福氏

今福氏からは、「環境行政 生物多様性保全の制度と取り組み」の演題のもと講演して頂きました。何故にいま生物多様性が尊ばれるのかの説明において、生物多様性は、生態系の多様性・種間の多様性・種内の多

意見交換会においては、水野会長の日本庭園造りに関係する造園技術を用いた緑地行政の展望に関しての質問からはじまり、千々和氏からは発注者側の視点としてプロポーザル形式の発注により合理的に対応できるのではとの応答があり、さらに岸野氏からはビオトープに関しては現場設計がもっとも適切ではないかとの意見が交わされました。

（記：編集部）



とでした。緑の基本計画に基づき、「パノラマの緑」とまちの緑がいきづく環境首都・北九州」をテーマにさだめ取り組んでおり、着目すべき視点として、環境首都の魅力の向上、健康・生きがいに対応した公園づくり、暮らしの安全に寄与する緑と公園づくり、市民とともに創るまちづくりの4点を設定しているとのことでした。

環境モデル都市北九州市の注目すべき取り組みとして、旧北九州空港に隣接していた産業廃棄物処分場の跡地である豊岡緑地を、自然に親しむような公園とする準備をおしすすめているとのことでした。他の報告例として、東田大通り公園では、

風の道と考えた築山を整えたうえで高木を追加植栽し緑陰を生かした景色の変化と人との交流が楽しめる空間を作りだしているとのことでした。山田緑地では、子供たちに体験学習として日本ミツバチプロジェクトを推進、夜宮公園のめぐり坂池では、地域の4小学校の生徒と一緒におこなった自然に優しい公園への再生、勝山公園では小学生を対象として木の観察会、さらに手作りで樹名板を作成するなどの活動をおこなっているとの報告がなされました。また計画段階ですが、金比羅山のある中央公園の近隣の福祉公園においては身障者と健常者が集える、五感でつなぐ人と緑と水のイメージのコンセプトに基づいた公園造りの計画が進められているとのことでした。



岸野氏

岸野氏からは、「生物多様性につながる身近な造園技術」の演題のもと講演して頂きました。生物多様性を担保しているのは、攪乱と遷移である」と事例をあげて説明されました。その攪乱と遷移を上手に活用し造園技術に反映させてビオトープ整備に組み込むことがとても大事であり、鹿児島でのビオトープ整備のなかで人為的に小さな攪乱の起きた事例などを紹介して頂きました。最後に長い歴史をもつ日本庭園の技術をおおいに活用し、美しいビオトープづくりにつなげていくことが大切であるとのことのお話がありました。



東田氏

また生物多様性に関する問題として都市地域の希少種生物への対応が課題であるとする認識が千々和氏からの意見としてあり、今福氏からは地域特性の生物環境があるところに於いて事業をおこなう場合、希少種を守るために国を巻き込んで予算を確保し、環境資源として活用することが提言されました。

東田氏より環境未来都市を目標に掲げる北九州市のいくつかの取り組みを報告して頂きました。生物多様性を担保するためにESD（持続可能な開発のための教育）がとても大切なことであり、北九州市としても公害克服の経験を生かしてさらにESDを実践する政策として取り組んでいるとのことでした。

また会員からは、ESDに関連してESDを実践し目標とすると同時に、実際の行政現場に於いては市民と共に学ぶことの重要性に着目する必要性もあるのではないだろうかとの提言や、会場企業としての窓口の広いPFI方式の公共遊休地活用の提案がありました。

都市と自然の共生・生物多様性・環境未来都市・ビオトープ・ESD等のキーワードを中心に数多くの考え方や意見が交わされたシンポジウムとなりました。

支部活動

屋久島研修旅行

若松支部

9月12・13・14日、若松支部で屋久島へ研修旅行に行つてまいりました。

東戸支部からグリーンニッポの塚本社長も加わり総勢12名の参加で三日間、屋久島を堪能してきました。

12時30分福岡空港発のJAL（プロペラ機）でいざ屋久島へ！ ぎこちない着陸で、無事屋久島到着。ボロボロのレンタカー（ハイエース）で、真っ先に平内海中温泉に行きました。

この温泉は、干潮の前後二時間だけ入れる温泉で、海岸の磯に自然に湧き出た温泉です。更衣室もなく開放的な男女混浴です。お湯はトトロの硫黄泉で体の芯まで温まります。疲れた体を芯まで癒して明日の縄文杉目指しての登山に備えます。

予定通りの次の日は雨。屋久島は、36日雨が降ると言われるくらい、いつも雨が降っています。しかしこの日の雨はいつもより少し激しい雨でした。

四時に起きて、荒川登山口から夜明けとともに出発です。女性陣を先頭にトロツコ道からの登山です。雨の中、枕木の間を踏んでの道のはとても辛く、だんだんと体力が奪われていきます。

しかし登るに従って大きくなっていく屋久杉に驚きながら、早く縄文杉に会いたくて、無心に足を出して行きます。

ザーザーと降りしきる雨の中での屋食は初めての経験です。お弁当の中にも雨

が入ってきます。数名が膝が痛くなつて「もう限界」と言う声も出てきました。

しかしここまで来て諦める訳には行けません。もう少しで縄文杉に出会えます。最後の階段を上り、霧の中から少し縄文杉の姿が見えました。

樹齢4000年以上 樹高30m 幹周16cm 何とも言えない感動の瞬間です。全員疲れたと言う言葉はもうどこかに飛んで行きました。静かに縄文杉は立っています。

そこには、4000年もの間に流れた時間がぎゅっと詰まっているようにも見えました。とても神秘的です。

記念撮影を終えて下山です。700人が登山した中で、一番早く出発して、到着は日暮れも近い一番最後でした。もう少し遅かったら帰りのバスに乗り遅れるところでした。

次の日は、数名が足を引きずりながら、千尋の滝などを観光して帰りました。とても思い出に残る研修旅行でした。

勝山公園
グリーンエコハウスの管理作業

小倉北支部

10月27日、グリーンエコハウスの屋上や壁面緑化の剪定作業を行いました。

秋晴れの美しい空の下、グラウンドゴルフ大会優勝チームの団結力で短時間全力投球し、ツタ類でうっそうとしていたグリーンエコハウスが見違えるほど、すっきりしました。作業後の窓から秋のやわらかな日の光が差し込むようになり、外の景色も輝いて見えました。男性8名、女性2名の仲間に感謝！



栄養塩について

樹木医一言
水野貞明 からの

19

● 人手の入らない森林や草原では、人が肥料をやらなくても植物が生き生きと育っている。

● 植物は、生育に必要な栄養塩を主に根から吸収する。栄養塩のうち、カリウム、カルシウム、マグネシウム、リンなどは岩石の風化とともに溶け出し、植物に利用される。

● 一方、窒素は降雨からわずかに土壌にやってくるが、ほとんどは土壌中の微生物が気体から固定したものである。

● 生物のほとんどは一次遷移の初期には、土壌に窒素がほとんどなく、藍藻や蘚苔類が固定することで徐々に増えていくのである。

● やがて植物が進出しそこで枯れると体に含まれていた窒素が、土壌に溶け出したり微生物に分解されたりして他の生物に利用される。

● 落葉や落枝の形で土壌に移動した有機物中の栄養塩は、土壌動物と微生物のはたらきでイオンの形となり、植物に利用されるようになる。

● 十分に土壌が発達すると植物の生育に必要な栄養塩類が、植物と土壌とのあいだで「めぐり」ようになるのである。

● 実は植物は葉を落とす前に、含まれている栄養塩を回収して（これを転流という）再利用するのだが、これで回収できるのはせいぜい元に含まれていた量の50%ほどである。

● 残りは土壌で腐生性の生物が構成する腐食連鎖に利用されることになる。

石田前専務理事を送る会



(記:事務局)

10月24日、平成19年から7年近く本協会を支えていただいた石田純一郎前専務理事を送る会が会員有志42名により賑やかに催されました。

水野会長の謝辞、石田前専務理事のご挨拶、岡野副会長による乾杯音頭に続く歓談では、石田前専務理事が参加した一人一人にお礼のご挨拶や思い出話をされていたのが印象的で、気さくで、「感謝の気持ち」をいつも大事にされているお人柄が改めて感じられるひと時でした。最後は藤田副会長のご挨拶で締めくくられ、短い時間ではありましたが、思い出を語り合う、楽しく充実した宴となりました。

石田前専務理事には、「都市と自然のシンポジウム」の開催や一般社団法人の認可など、協会の発展にご尽力いただきました。大変なご苦労だったと思います。

思い出は尽きず今は寂しい気持ちでいっぱいですが、これまでご指導いただいたことを忘れずに、本協会や会員企業並びに北九州市のさらなる発展のため、会員全社と共に力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますので、今後も温かく見守っていただければ幸いです。

末筆ながら、サイクリスト・石田前専務理事の今後益々のご活躍とご健勝を心よりお祈りいたします。

次世代を担う経営者たち



平方晴宏園

代表 平方友一さん

家業の造園業を始めてみて年々単価は下がるし、仕事は減るしでこれは大変な仕事を選んだものだと、10年間は必死に明るい未来を模索しております。

そんな時、緑化協会の繋がりでたくさんの方々の先輩方のご指導を受け、見聞を広め、仕事の行き来もさせて頂きました。

おかげで今ではまだまだ解決すべき課題はありますが、技術者・技能者として、また経営者として、既存の知識と技術を基盤として新しい時代の要請に挑戦し社会的使命を果たしていく事に自信と喜びを感じるようになりました。

自営業をしていると立場や意見の異なる方々とぶつかることもよくありますが、ふりかえれば仕事に限らず自分を鍛え高めてくれたのは私を苦しめた人や出来事であったと思います。今は全ての試練に感謝します。

最後に皆様方の益々の繁栄と健康・無事故を祈念しますと共に、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

この人にズームイン

(株)青葉造園

代表取締役

田村俊一さん



造園の世界に入る前は、NEC関連の大学向けのソフトウェアを作成する会社に勤めておりました。その時の経験が現在の工事書類等の作成に大変役立っています。

現在42歳ですが、まだまだ知らない事があり、日々勉強ですね。

休日には、釣りやラジコン、週3〜6日やっているソフトバレーボールの練習や試合などに参加します。

また、母、弟と共に絵を書いたり、子供が喜ぶような物を作ったりして楽しんでいきます。

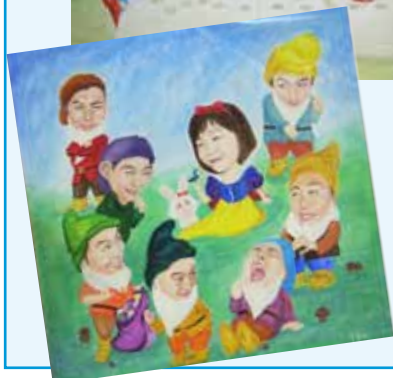
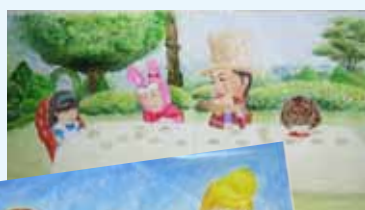
先代の社長が父で職人気質の人でした。

昨年惜しくも癌で亡くなり、現在は弟、母と力を合わせて頑張っています。

父の厳しかった仕事ぶりや、楽しかった日を忘れないよう、家族で力を合わせて頑張っていると思います。

写真は弟の勉が描いたものです。

協会の文化祭には毎回、家族の作品を出品させていただいております。



委員会活動



総務・財政委員会

●11月28日、北九州国際会議場・国際会議室において、第7回都市と自然の共生シンポジウムを開催しました。

詳しくは本誌内に記事が記載されており、ますのでそちらをご覧ください。

●10月24日、「石田前専務理事を送る会」が開催されました。6ページをご覧ください。

広報委員会

●本誌「みどり北九州」第47号を作成しました。本誌は当協会活動や北九州市の緑化事業に関する情報発信を目的としています。地域的な出来事やさまざまなニュースなどがありましたら、ぜひとも広報誌に掲載させて頂きますので広報委員までお知らせください。第47号の発刊につきましても多くの方に記事作成や取材の協力を頂きましたことを心から感謝申し上げます。

技術委員会

●10月、3日間にわたり、「小型移動式クレーン技能講習会」を実施しました(受講人数12名)。



1日目と2日目はスライドやテキストを使用しての学科講習、3日目は実際に機械を使用して実技講習をいたしました。

●平成27年3月18日、当協会の「響灘緑地研修館」にて刈払機取扱い講習会(安全衛生教育を実施する予定としております。申込要領につきましては後日ご案内させていただきます)。

事業委員会

●都市緑化祭への地域貢献活動

10月19日、第38回北九州市都市緑化祭において、当協会も緑化事業の協力団体として、事業委員と若松支部の会員を中心に、今年は「グラウンドゴルフでホールインワン」というイベントを行って参加協力しました。



子どもから大人まで楽しめるグラウンドゴルフの体験を通して、緑溢れる自然の中でスポーツの楽しさを知っていただくという趣旨のもと、ホールインワンを目指して、小学生以下の子どもさんを対象としたコースに約120名、中学生以上の方を対象とした一般コースには約70名の方々に参加いただきました。今後このような地域貢献活動に取り組んでいきます。

青年部

●現在「合馬の目串プロジェクト」を展開中です。作業も軌道に乗り、完成品が着々とできております。まだまだ数は少ないのですが、とてもイイ出来です。パッチリ刺さりますよ！



●青年部では各社の代表になられる若手の方、もしくは主力となる若手社員を主な対象として活動しています。自薦・他薦を問わず、新しい方のご参加をいつでもお待ちしております。



訃報

当協会にご尽力いただきました会員の方がご逝去されましたので、謹んでお知らせいたします。

【八幡南支部】

(有)山下造園建設 代表取締役 山下 誠 氏
ご冥福をお祈りいたします。

掲示板

●代表者変更のお知らせ

【八幡南支部】

(有)山下造園建設
代表取締役 山下春喜(新) 山下 誠(旧)

こちら
ホームページ
編集部

私たちは協会ホームページを通じて、旬の情報、役立つ情報をタイミングを逃さずにお届けできるよう、努力しています。

今回の『みどり北九州』より公募させていただいた表紙写真ですが、思いもしないレイアウトの写真のご応募もあり、とても

楽しく感じながら拝見させていただきました。ありがとうございます！しかし初めての企画ということもありまだまだ応募数が少ないので、今後皆様のたくさんの応募をお待ちしています！詳しくは協会ホームページに記載しておりますので、ぜひご覧ください。

皆様にとって魅力のあるホームページに近づけたいと思っていますので、ご意見ご要望等もしどしお寄せください！

北九州緑化協会

編集後記

新年おめでとうございます。

本誌47号も多くのの方々よりご協力を頂きまして、皆様にお届けすることができました。広報部一同、心より感謝いたします。表紙を飾りましたのは、北九州が誇るブランド「合馬たけのこ」です。合馬地区の粘土質の赤土は、灰汁が少なく風味豊かで軟らかい筍を作り出すのに最も適しているそうです。初出荷は1月前から…もう出回っているのかと思いきや「白子」と呼ばれる最高級品は、ほぼ関西の高級料亭などで使われているという事で、この時期にお目にかかるのは難しいものの、シーズン中に新鮮なものを刺身(生)でいただける贅沢はたまりません。

今回の表紙は写真公募にご投稿くださいました林夏実さんの作品です。ありがとうございます。自然に恵まれた北九州市、皆様のご自慢は何でしょうか？次回もたくさんのご投稿をお待ちしております。(YH)

<協会会員一覧>

支部	商 号
門司	九州環境土木(株)
	(有)西新緑地建設
	(有)豊西緑地開発
	(有)松本造園建設
	(株)水野文化園
	(株)門司造園
	(有)門司緑地土木
	(株)青葉造園
	(有)アートグリーン
	朝日工産(株)
小倉北	内山緑地建設(株)
	北九州支店
	(株)梅田造園土木
	北九州東部緑地管理(株)
	(株)九州造園
	(株)九州緑化産業
	北九州支店
	(株)西日本緑化
	(有)緑地管理中山工房
	青葉緑地建設(株)
小倉南	(株)環境造園
	(有)協同造園土木
	(有)グリーンカンパニー
	小倉造園(株)
	(有)小倉南緑地
	(株)昭和造園
	総合緑地建設(株)
	(有)林造園
	(有)日浦緑地建設
	豊州造園建設(株)
若松	(株)守恒造園建設
	山本興業(有)
	(株)成光社
	総合園材(株)
	(株)タカギ
	日本乾溜工業(株)北九州本社営業部
	(株)タカギ
	日本乾溜工業(株)北九州本社営業部
	(株)タカギ
	日本乾溜工業(株)北九州本社営業部

<賛助会員一覧>

商 号	商 号
(株)成光社	(株)タカギ
総合園材(株)	日本乾溜工業(株)北九州本社営業部

緑について気軽にご相談ください。

一般社団法人北九州緑化協会 TEL:093-654-1233